



Stepan Petrovich Krasheninnikov
Histoire de Kamtschatka, des Isles Kurilski,
et des contrées voisines, Lyon, 1767
French edition, originally published in Petersburg, 1755
クラシェニンニコフ著 『カムチャッカ誌』

著者のクラシェニンニコフ(1713?-1755)はロシアの地理学者。ピョートル大帝の命によりベーリング(Vitus Jonassen Bering, 1681-1741)を隊長に据え始められたカムチャッカ探検の、第2次探検隊(1733-1743)に他の多くの専門家たちとともに参加した。

彼は1733-36年にシベリアを、続く1737-41年にカムチャッカ半島を調査し、その成果をまとめて1755年『カムチャッカ誌』(原書名:Описание земли Камчатки)を著した。本書はカムチャッカ半島の地理、先住民族の習俗・言語に関する初の報告書となる。

本書では、カムチャッカ半島のほか、第2次探検隊の調査対象であったアラスカ、アリューシャン列島、千島列島、北海道についても併せ論じられており、その内容の一部は、オランダ語訳を介して、江戸時代の蘭学者、前野良沢(1723-1803)により『東察加志』(1790)として日本でも紹介された。

展示資料は、英語版をもとに翻訳されたフランス語版。1767年にリヨンで出版されたもの。カムチャッカと千島列島の折込地図つき。